

# 小学校を対象とした『藤沢市MM教育』の導入について

○藤沢市計画建築部都市計画課 加藤 雄介 筑波大学大学院システム情報工学研究科 谷口 綾子 藤沢市教育部教育指導課 坪谷 麻貴  
(公財)交通エコロジー・モビリティ財団 岡本 英晃 八千代エンジニアリング(株) 森 和也

## 背景

神奈川県藤沢市では、平成26年度に策定をした「藤沢市交通マスタープラン」において、環境にやさしい交通まちづくりを目指す上で環境負荷が小さい自転車や公共交通の利用促進につなげる重点プロジェクトとしてMMの推進を掲げている。  
その中でも特に効果的な子ども達を対象に、教育課程と連携をしたMM教育の検討を始めた。

### <藤沢市内における小学校の概要>

- ◆小学校数 35校(私立小学校3校と白浜養護学校は含まない)
- ◆生徒数 約23000人(1~6年特別支援学級含む)
- ◆小学校の位置:右図★

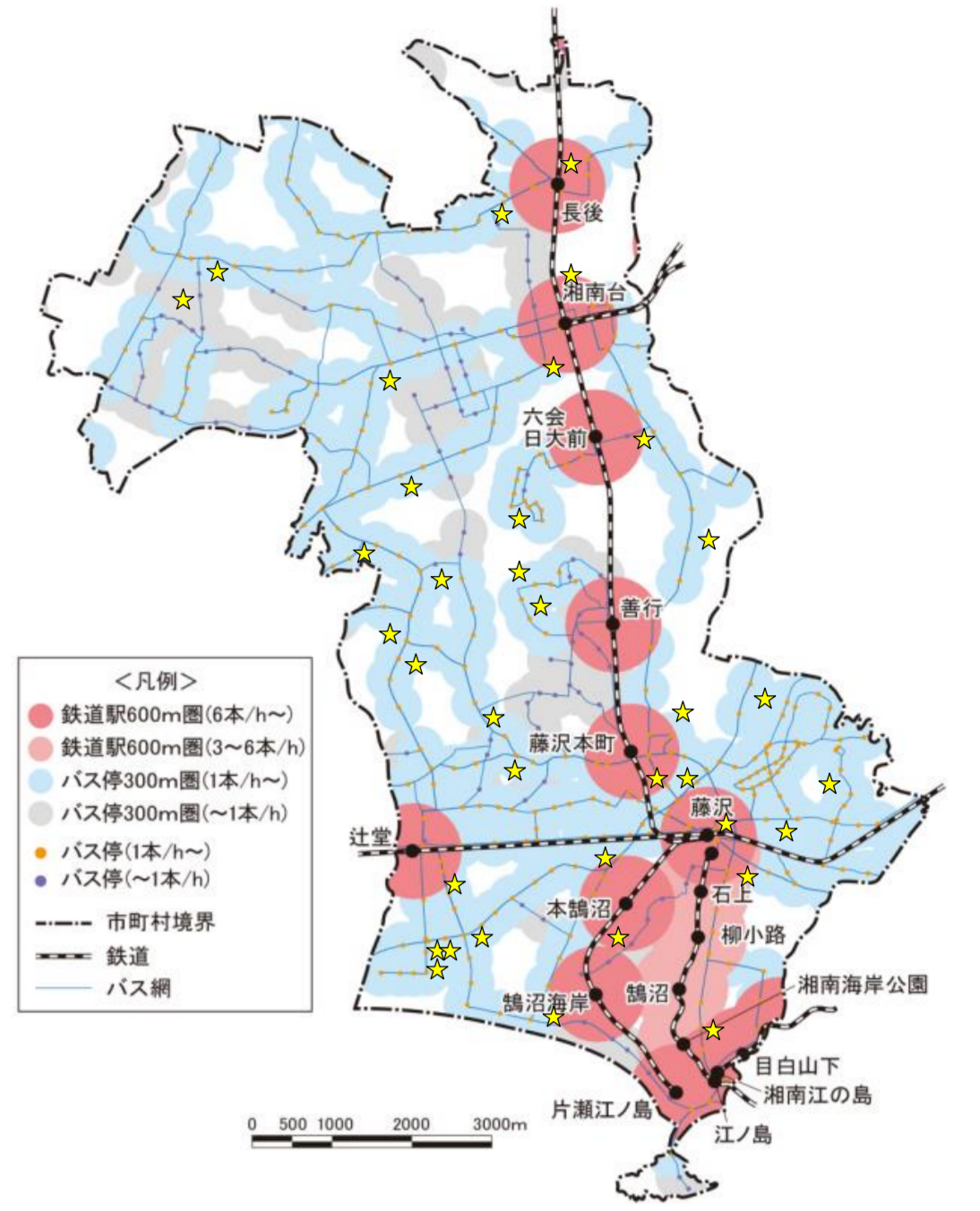
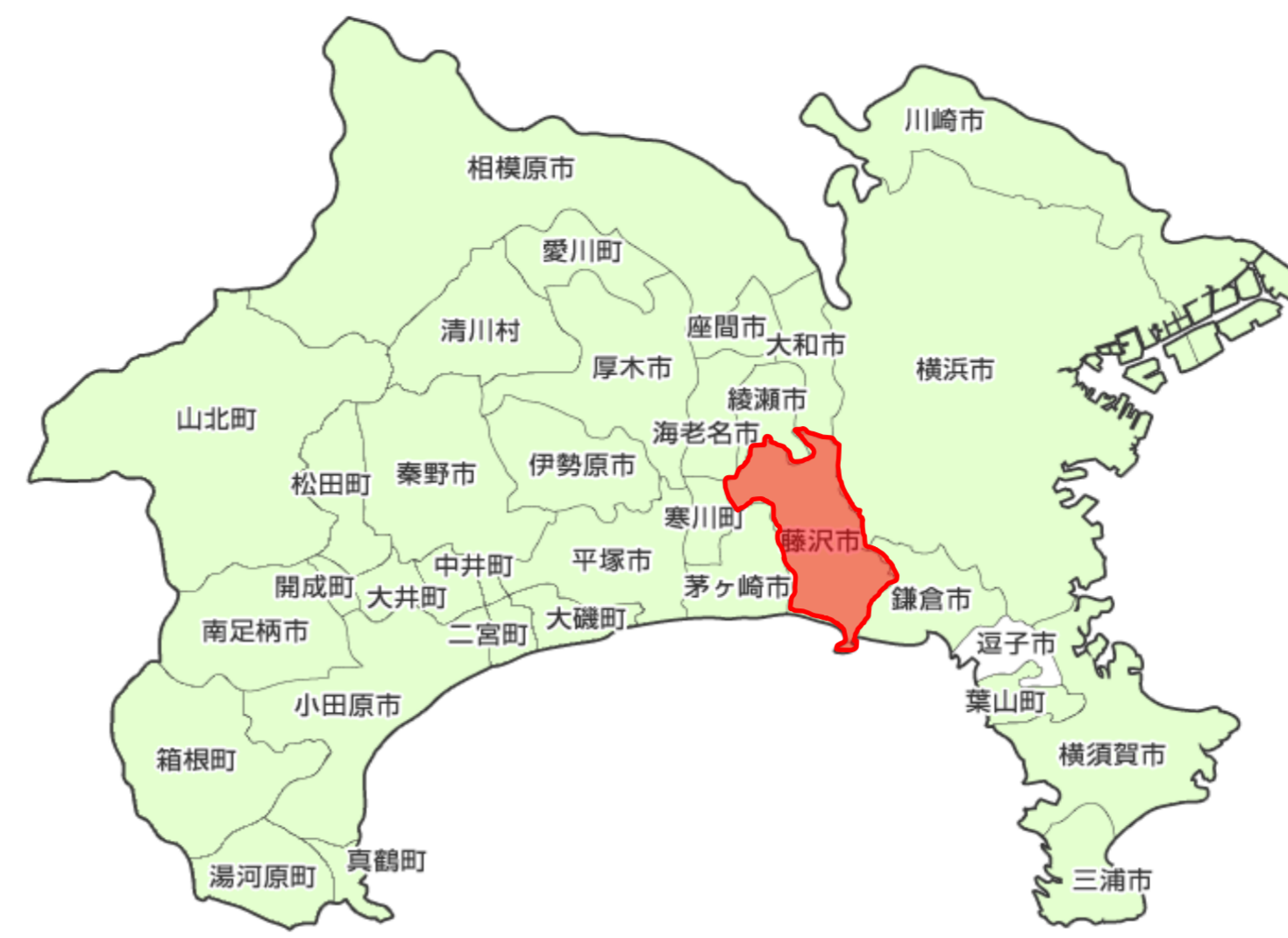


図. 公共交通のサービス圏域状況

## 導入に向けた取り組み

藤沢市に適したMM教育の確立に向けて、「藤沢市地域公共交通会議MM教育検討会」を設置し、モデル校における取り組み内容やMM教材の検討、藤沢市MM教育実施手引書の内容について検討を行った。

### (1)モデル校によるMM教育検討授業の実施(6校10クラス)

小学校長会が選出したモデル校により藤沢市に適したMM教育の検討授業を行った。

#### <実施事例>

- (i)「バスと電車の乗りかたガイドブック」で公共交通の乗り方を学習しながら校外学習(鎌倉めぐり等)の機会を捉えて利用の実践を行った。
- (ii)活動量計を使った体育(保健領域)での授業を行った。
- (iii)実際の移動を模した「ふじさわ交通すごろく」を使用した授業を行った。

### (2)交通環境学習教材の検討

モデル校による藤沢市に適したMM教育の取り組みと同時にMM教材について、改善点を検討し、改良を重ねた。

#### <MM教材例>

- (i)バスと電車の乗りかたガイドブック
- (ii)ふじさわ交通すごろく
- etc...

### (3)『藤沢市MM教育』についての周知・説明活動

- ◆小学校長会、人権・環境・平和担当者会、藤沢市小学校教育研究会(社会科部)での説明を行った。
- ◆教員用リーフレットの配布(市内教職員全員分)



(i)「バスと電車の乗りかたガイドブック」で公共交通の乗り方を学習し、実際に校外学習で自分たちが乗る電車の時刻を確認しているところをとらえたもの。



(ii)万歩計を使った体育(保健領域)の授業。「運動」に着目し、3日間の行動を記録した。移動手段別の歩数と時間に関する説明をし、再度万歩計で行動を記録し、歩数を増やすための行動プランを考えた。



(iii)「ふじさわ交通すごろく」で鉄道やバスといった市内の公共交通を学習しているところ。バス停や駅のほか、黄色のマスは徒歩を表しており、1マスの移動時間はおよそ3分になっているため、時間感覚も養うことができる。

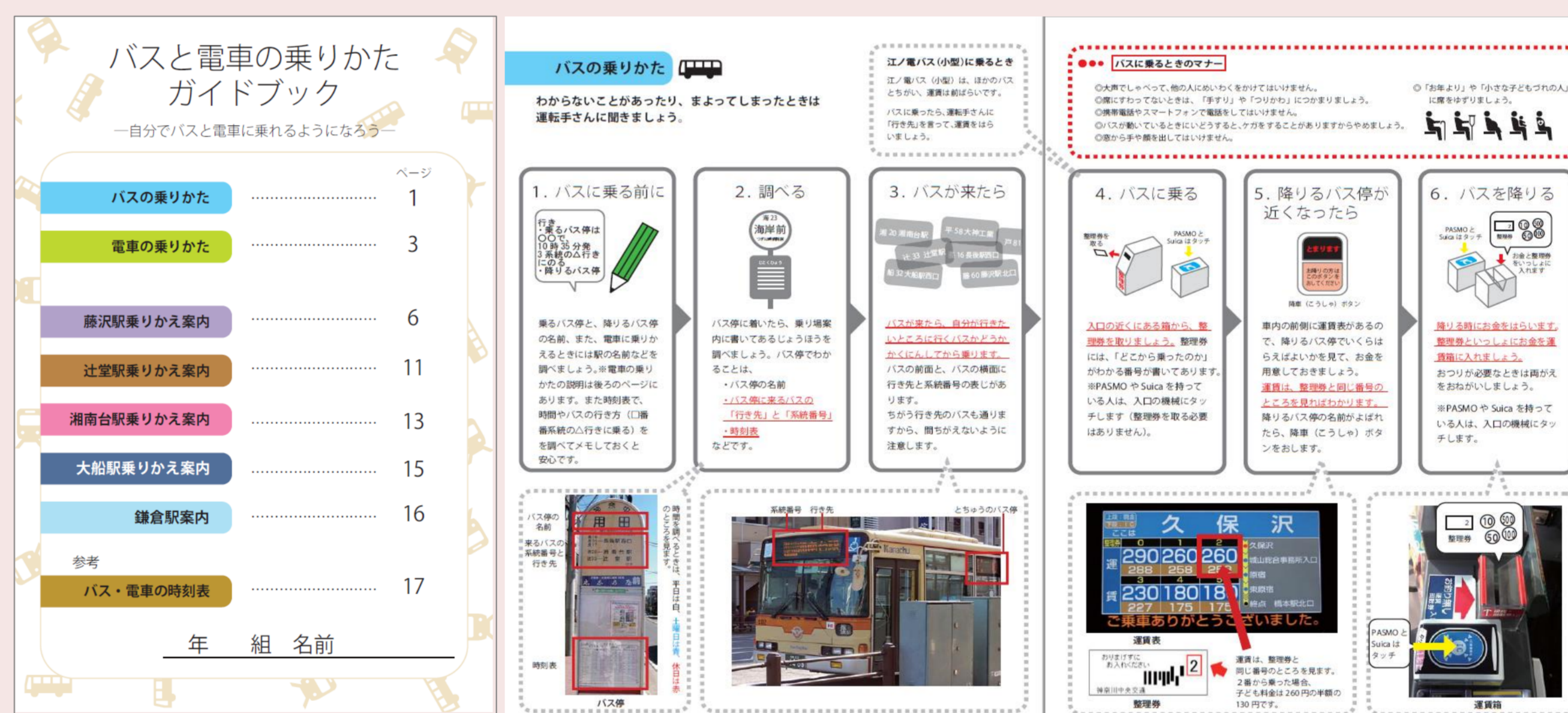


図. バスと電車の乗りかたガイドブック

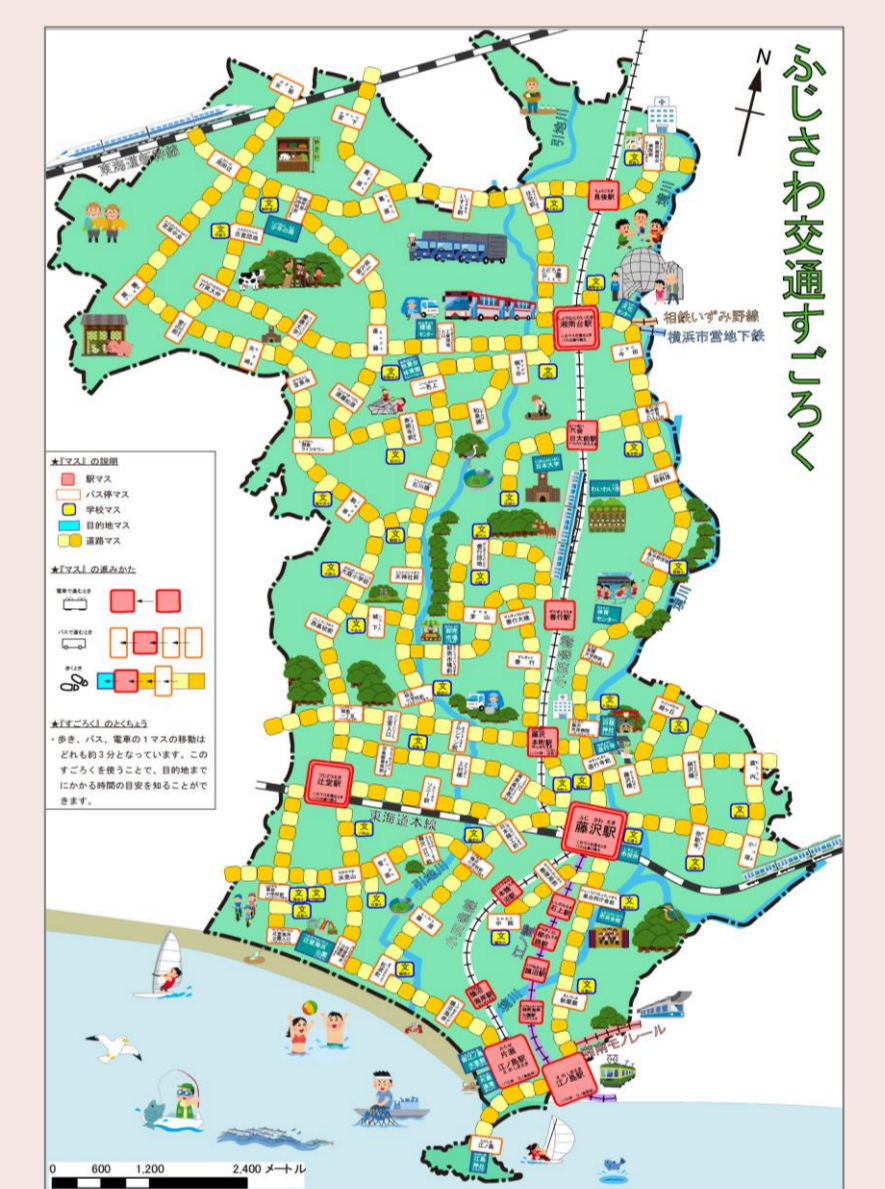


図. ふじさわ交通すごろく

## 成果

公共交通の利用環境が充実している当市の地域特性を踏まえ、公共交通を利用することを中心として段階的に学習理解を進めていく『藤沢市MM教育』を確立した。

### (1)実施手引書の作成

H26年度~H29年度に行ったモデル校における藤沢市に適したMM教育の授業内容や、使用したMM教材をとりまとめ、小学校における『藤沢市モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)』の実施手引書を作成した。『藤沢市MM教育』の概要を記載している理論編、モデル校で行った授業計画や使用した教材等を全てまとめた実践編、MM教材を収録している資料編の3編構成となっている。

### (2)『藤沢市MM教育』の進め方

『藤沢市MM教育』は6つのプロセスから構成され、プロセスが進むにつれて、学習内容が深度化する。このプロセスは授業計画に複数設定することができるほか、順番を前後させることも可能としている。

### (3)『藤沢市MM教育』の特徴

- ①子ども達が公共交通(バス、電車)のことを知って利用できるようになる。
- ②先生が社会科や理科、体育(保健領域)といった教育課程の授業の中にMMの要素を取り入れることができる。
- ③先生が子ども達の公共交通の利用状況に応じて授業内容を変更できる。

### (4)MM教材の作成

- ・ふじさわ交通マップ
- ・バスと電車の乗りかたガイドブック
- ・渋滞や地球温暖化に関する資料
- ・ふじさわ交通すごろく
- ・行動記録カード
- etc...

### プロセス1 公共交通の知識を学習する

### プロセス2 移動ルート調べ利用(計画・実践)

### プロセス3 移動が及ぼす効果・影響を学習(把握)

### プロセス4 クルマと公共交通の対比を学習する

### プロセス5 仮定した状況下での移動計画(行動プラン)を学習する

### プロセス6 選択した移動(計画)を評価・共有する

### 「子ども達のめざす姿」の達成

図. 『藤沢市モビリティ・マネジメント教育』における6つのプロセス

表. 6つのプロセスと教科・単元の関係

学年	教科	単元	モビリティ・マネジメント教育の構成要素					
			プロセス1	プロセス2	プロセス3	プロセス4	プロセス5	プロセス6
小3	社会	わたしたちの大好きなまち【2-11】	●					
	体育(保健領域)	変わるわたしたちの暮らし【2-1】 育ちゆく体とわたし【2-1】		●	●		●	●
小4	社会	わたしたちの県のまちづくり【2-33, 47】	●					
	社会	工業生産を支える人々 暮らしを支える情報 国土の自然とともに生きる	●		●	●	●	●
小5	国語	ディベート	●					
	体育(保健領域)	生活のしかたと病気①【2-64】		●	●		●	●
小6	社会	暮らしの中の政治						
	理科	わたしたちの生活と環境 生物と地球環境			●	●	●	●
小3~小6	総合的な学習の時間	環境や地域等をテーマにした単元	●	●	●	●	●	

### ?子ども達のめざす姿とは

- ①TPOに合わせて移動手段を考え、公共交通、クルマ、自転車、徒歩等を「かしくく」使うことができる。
- ②地球環境問題などの社会的な影響や健康などに配慮し、自発的に移動手段を選択して行動をすることができる。

### 今後の取り組み

- ・実施手引書は3年毎に見直しをかける。次回見直しはH33年度。
- ・教員からの要望があるものに関して、MM教材の提供を行い、必要であればMM教育についての説明等も行っていく。
- ・引き続き、校長会等の機会に『藤沢市MM教育』の説明を行う。

### 参考

- ・藤沢市地域公共交通会議MM検討会(H26~H29年度まで計8回開催)
- ・モデル校による検討(H26年度:1校、H27年度:4校、H28年度:3校、H29年度:2校)
- ・H30年度から藤沢市教育指導計画の中に『藤沢市MM教育』が位置づけられた。